

まちのこえへの回答 No.5

(日本最初の海水浴場・大磯の再現に向け、(仮称)「大磯町アクア健康センター」の開設を提案)

担当主管課：スポーツ健康課(内線308)、産業観光課(内線617)

要望等内容	回答
<p>明治18年(1885年)、軍医総監の松本順先生は、国民の健康増進と体力の向上をはかるためには海水浴が良いと説かれ、自然に恵まれた大磯の照ヶ崎海岸に、日本で最初の「海水浴場」を開設されました。しかし、138年が経過した今日、その名は「湘南発祥の地・大磯」とともに、全国的には知られていません。それよりも、民間企業が昭和32年(1957年)に開業した、相模湾が一望できる巨大なプールは知名度が高く、地方を旅行した際、現地の人から「どちらから、お出かけですか?」と尋ねられて答えと、「ああ、大磯ロングビーチの…、いい所ですよね…」と言われるほど、知られています。</p> <p>海水浴場発祥の地に住み、目の前に海がありながらも、何十年も海水に浸かっていない町民は多いと思います。そこで、潮水と波に身を委ねるリラクゼーションが健康に良いと説かれた松本順先生の遺訓を呼び起こし、照ヶ崎海岸に高齢者も身体のご不自由な方も幼児も、すべての人が安全に「潮湯治」(潮湯浴み)ができる施設として、(仮称)「大磯町アクア健康センター」の建設を提案いたします。</p> <p>また、大磯の沖合には「湧昇流」が起きていることから、海洋深層水を汲み上げ、健康と美容効果を謳った通年型の「潮湯治」(潮湯浴み)施設にすれば、町内外の需要は高いと考えられます。潮湯浴みの他には、人工砂風呂、露天風呂、ジャグジー、サウナ、打たせ湯、海洋療法(タラソテラピー)、あるいは深層水の試飲や深層水を使用した商品開発、販売も考えられます。その他、海洋深層水を使ったアワビの養殖なども考えられ、雇用創出にもつながると思います。</p> <p>通年型の「潮湯治」(潮湯浴み)ができる(仮称)「大磯町アクア健康センター」の建設地は、現在の大磯港の砂利置き場が最適と考えられ、その砂利置き場を移設することにつきましては、大磯町と平塚市と神奈川県三者でよく協議をして頂き、平塚港への移設が望まれます。</p> <p>相模湾が一望でき、富士山も眺められる大磯は、東京や横浜からも近く、現代人の「美容と健康」志向、そして大磯に「日本初の海水浴場」が開設されて140年を記念して、(仮称)「大磯町アクア健康センター」は大いに検討する価値があると考えます。北海道の熊石(八雲)・滑川・館山・三浦・焼津・室戸・沖縄など、海洋深層水の先進地も研究されて、ぜひ推進して</p>	<p>町政につきましては日頃より御理解、御協力いただきありがとうございます。(仮称)「大磯町アクア健康センター」の建設について御提案いただき、ありがとうございます。</p> <p>御指摘のとおり、海水浴は松本順先生の発案により、日本古来の湯治の伝統と西洋の公衆衛生学に基づく海水浴の概念を融合させた画期的な「病気療養」の一手法として誕生したものです。以後大磯は御承知のとおり「海水浴場発祥の地」として栄え、現在に至っておりますが、時代や社会生活の変化とともにその認知度も変わってまいりました。</p> <p>さて、御提案の「海水」をキーワードとする健康施設の建設につきましては、大磯町の公共施設に関する諸計画との整合はもとより、海を管轄する国土交通省や大磯港を所有する神奈川県と情報共有していくことが必要となります。これらは建設資金の課題とともに大きなハードルであり、一朝一夕には実現が難しい面がございますが、たゆまぬ努力を重ねて参りたいと考えております。</p> <p>なお、海洋深層水を活用した商品開発につきましては、健康施設とは切り離して考えることも可能ですし、無限の可能性を秘めた貴重な財産と言えますので、先進地の例を参考にしながら、研究して参りたいと存じます。</p> <p>今後とも、引き続き御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。</p>

頂きたいと考えます。

まちのこえ受付日：R5.8.8

掲示日：R5.9.15